

第 17 回群馬県支部総会・講演会・懇親会報告

群馬県支部長 深澤 恵子 (昭 56・化学)

令和 5 年 7 月 8 日 (土) 高崎アーバンホテルにて第 17 回群馬県支部総会・講演会・懇親会を開催しました。当日は鶴風会より理事の進藤洋一様、評議員の高柳様 (神奈川県副支部長)、名和様、加藤様、内山様、川口様、鶴風会山梨県支部長の佐藤様、北陸支部長の横山様、新潟県支部長の本田様、新潟県支部役員の大橋様、矢島様にご出席いただき、支部会員 11 名、総勢 22 名で久しぶりに賑やかな会となりました。

会の始めに、この 5 月にご逝去された鶴風会元理事長の登坂邦雄様のご冥福をお祈りいたしまして、黙祷を捧げました。登坂様には、群馬県支部の立ち上げからたいへんお世話になりました。この日は懐かしい当時の皆さんも揃い、あちこちで思い出話が聞かれました。

総会では初めに会の成立を報告し、令和 4 年度の活動報告、決算報告・監査報告、令和 5 年度の活動計画、予算について承認されました。そしてこの度の鶴風会法人化について、その経緯と状況、支部の立場など、支部長が評議員として会議で得た情報を説明し、群馬県支部の活動は今後も変わらないことをお伝えしました。



続いて講演会です。講師の石田彰様 (S35 年化学) には令和 2 年に講師をお願いしておりましたが、ちょうどコロナ感染症が流行し支部総会ともに中止となってしまいました。あれから 3 年経ち、今回もう一度お願いしましたところ快く引き受けてくださいました。講演の演題は「マイクロプラスチックについて」で、石田様の生涯の研究テーマですね。



マイクロプラスチックは環境中に存在する微小なプラスチック粒子のことですが、海洋環境における生物の食物連鎖により人体に取り込まれる危険性はもちろんのこと、大気中にも浮遊しお母さんの母乳から検出されたり、あらゆるところに含まれている可能性があるということでした。ちょうど先頃、マイクロプラスチックが北海道の広範

囲で新雪から検出されたという研究発表もありまして、タイムリーな内容でした。これらのマイクロプラスチックを急に取り除くことはできないけれど、ひとりひとりが少しでもプラスチックの使用を控える努力が必要だとまとめられました。聴講していた出席者はみな、お話しに引き込まれていました。内容も構成も絶妙でしたとの感想もあり、群馬県支部会員として大先輩の存在を誇りに思います。

講演会の後は4年ぶりの懇親会でした。神奈川の高柳様からご祝辞をいただき、加藤様の乾杯のご発声。支部の存在を大切に育んでくださった方々が大勢集まってくださいました。今回も思いがけない出会いがあり、アメフト部の輪がつながりました。宴も盛り上がり、恒例の近況報告では（今回マイクがなかったものですから）交代で前に出て声を張り上げて次々思いを語りました。最後に皆で校歌を歌い、飯野副支部長の音頭で福を呼ぶ手締めをし、来年20周年の再会を誓ってお開きとしました。

